

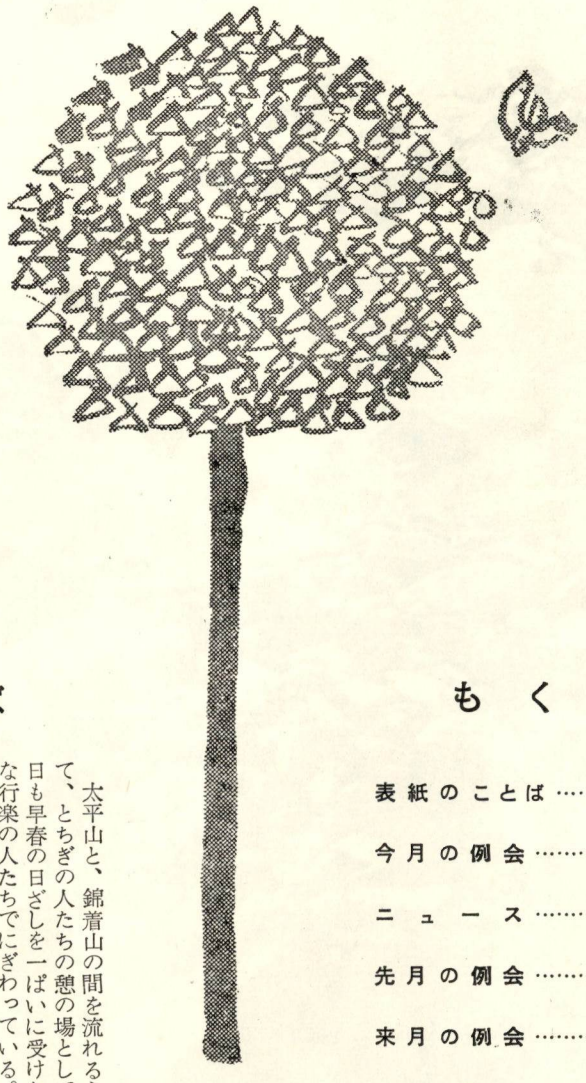
4

栃木勤労者音楽協議会

1962

4

人の世の　ひとざと遠く
花爛ける　深山のさくら
みどり濃き　峡を流れる
真清水の　孤独の声に
耐え生くる　翳を濡らして
はらはらと　風に散りゆく
深山桜の　悔いもたぬなり



もくじ

表紙のことば …… 2
今月の例会 …… 3
ニュース …… 6
先月の例会 …… 8
来月の例会 …… 10
お知らせ …… 12

表紙のことば

太平山と、錦着山の間を流れる永野川は、四季を通じて、とちぎの人たちの憩の場として親しまれてきた。今日も早春の日ざしを一ぱいに受けた川原は、たのしそうな行楽の人たちでにぎわっている。それらの人たちは自然につくられた川原の、造型的なひろがりやその間を縫う清冽な流れに、暗い冬からの解放感を、しみじみと感じているにちがいない。

すでに、小石の間からは、くさぼけ・すみれ・おおいぬのふぐりなどが首を出し、小さな花を咲かせている。その姿は、可憐なうちにも風雪に堪えた力強さにあふれている。

栃木労音も、幾多の困難をのりこえて、ここまで成長してきたが、これらの草のように、日の当らない場所でもくもくと努力を続けてきた会員の蔭の力を忘れてはなるまい。



井上頼豊

チェロリサイタル

ピアノ

池本純子



ブルッフ

「コル・ニドライ」作品四七

「コル・ニドライ」というのは、ユダヤ教の神の日のことを指すが、この教会で贖罪の夕べに歌われる古い聖歌の一つをもいう。

ブルッフは、この聖歌に基づいて、管弦楽伴奏つきのチェロ独奏用の一種の幻想曲を書いた。曲は二つの部分からなり、アンダンテ・マ・ノン・タント　ニ短調四分の四拍子の、第一部は静穏な宗教的な旋律に始り、間もなく、荘重な新しい旋律を出す。第二部に入ると、ニ長調に転じ、ウン・ポーコ・ピウ・アニマートとなって、力強く線の太い明るい旋律を呈示し、これを変奏風に取扱って行く。もともとチェロ独奏曲で、チェロの特徴をよく生かした曲なのだが、今では、ヴァイオリンその他の楽器の独奏用にも編曲されて親しまれている。伴奏も、管弦楽よりもむしろピアノで行われることが多い。

ハイドン

メヌエットとアレグロ（嬉遊曲ニ長調より）

ハイドンはソナタ形式の完成者として、バッハ、モーツアルトからベートーベンにいたる間に重要な地位を占める作曲家である。

ハイドンは66曲の喜遊曲を作曲している。喜遊曲とは、デイヴェルテイメントの訳で、原語は気晴しの意である。屋外で奏される事もあり、又食事の時室内で奏される事もありいずれにしても軽い内容のものが好まれた。18世紀後半ウィーンの貴族の間に流行し、交響曲と組曲の特徴を合せたような内容を有する。五―六あるいはそれ以上の多楽章よりなり、各楽章は比較的短く、ソナタ形式や、舞曲や変奏曲などが組み合されている。喜遊曲ニ長調はその中でも代表的なものである。



ベートーベン
チェロ奏鳴曲イ長調
第三番　作品六九

ベートーベンはチェロとピアノのためのソナタを五曲書きました。そのうち最も有名な第三番は、第五「運命」・第六交響曲「田園」や第五ピアノ協奏曲「皇帝」と同時期に作られた。いわゆるベートーベン中期の情熱と緊張の充満した代表作のひとつです。

同時に、チェロという楽器始まって以来の深く多様な性格的表現を完成し、しかもチェロとピアノの二つの楽器を、一分のすきもなくしっかりと組み合せそれぞれの性能と性格をみごとに生かしながら全体としてひとつの格調高い充実した内容をもりあげており、そのうえ旋律は明快で親しみやすく、あらゆる点でチェロ曲の最高傑作とされています。バッハの無伴奏チェロ組曲に対して、この曲がチェロ曲の「新約」とよばれるのもこうした理由によるものです。作曲は一八〇八年楽聖三八才の夏でした。

曲は三つの楽章からなり、全曲をつうじてチェロとピアノが対話しながら曲を進めます

第一楽章はイ長調のソナタ形式。まず、チェロの重厚な深い性格をみごとに集約したような第一主題がチェロだけで現われ、ピアノがそれをうけて進み、やがてピアノの典雅で流麗な第二主題が出て、チェロは音階的な上向進行でそれを飾ります。二つの楽器の対話を極限まで生かして緊張を持続しながら、曲はみごとな展開部をへて主題が再現され、幅広く緊張した結尾へと堂々と高まります。

第二楽章はイ短調の諧謔曲で二つの部分の反復でできています。

第一部は、切分音を使ったふしぎな力強さをもつ主題がピアノで始まり、形を変えつつもり上ります。第二部分は、チェロのびやかな二重音旋律が主となり、低音域のさざなみのような動きがこれを支えます。第一・第二部分がもう一度反復されてから、第一部分が三度あらわれて、切分音をくりかえしながら終ります。



第三楽章は短いながら非常に美しい緩徐部分に始まり、これを序奏としてすぐいきいきとはげしいソナタ形式に入り、最初にチェロで弱奏される第一主題を中心にみごとな展開をみせ、緊張と弛緩をすばらしい巧みさで対比させながら、この円熟した傑作の終幕にふさわしい壮大で充実した結尾へとみちびいてゆきます。

チャイコフスキー
ロココの主題による変奏曲
（オリジナル版）

チェロ独奏、管弦楽伴奏の曲。（ピアノ伴奏でも奏せられる）チェロ独奏曲としては最も傑出したものの一つで、演奏技巧を十分に発揮し且つ変化多く作られている。

「ロココ風」フランス、ブルボン王朝のルイ十四世、ルイ十五世（十七世紀中頃から十八世紀中頃）時代の建築や家具の装飾意匠で貝殻模様の優美な曲線を誇張した様式。豪華な感じがあるのでこの流行はヨーロッパ各国に広がったこの曲におけるロココという字は「十七世紀から十八世紀にかけての宮廷的な優美な」という意。演奏時間約十分。

（序奏）モデラート・タワジ・アンダンテ、イ長調四分の二拍子管弦楽で穏やかに美しく主題へ導いて行く。【主題】モデラート・センブリーチェ、イ長調四分の二拍子。軽快な古風な旋律で、十六小節の前半後半を各々繰返し（変奏の方では繰返さないが）八小節の後奏を付ける。（変奏第一）主題の速さ、調、拍子、そのまま。独奏チェロが三連十六分音符をつづけて飾る。（変奏第二）同じくチェロが迅速に動く。（変奏第三）アンダンテ・ソステヌート、ハ長調、四分の三拍子。独奏チェロがカンタービレ（歌うように）で緩やか

な円曲舞風な変奏をひく（変奏第四）アンダンテ・グラチオーソ。イ長調四分の二拍子穏やかな感じ。

チェロはリズム的に動く、変奏第五）アレグロ・モデラート。イ長調四分の二拍子。明るく華やかにそのあとでチェロ無伴奏のカデンツア（変奏第六）アンダンテニ短調、四分の二拍子。瞑想的に悲しみをこめて。（変奏第七）アレグロ・ヴィヴォ。イ長調四分の二拍子。華麗、快活に技巧をつくす終結。



間宮芳生

唄（南部牛追唄より）

さうち三千石
サァハェー お米のでどこヨ
シッキョホイ
つけておさめた
サァハェーおくらまい
コラサンサエ

田舎なれども
サァハェー南部の国はヨ
ハラヨ西も東も
サァハェー
かねの山
コランサンサエ

田舎なれども
サァハェー南部の国はヨ
シッキョホイホイ
けろりかつかり
サァハェー
伊達に四ツ柱ヨ
シッキョホイ
ごしょう袋に
サァハェはえはらりん
コラサンサエ

間宮芳生（まみや・みちお）氏は、わが国の若手作曲家中のホープです。若手というとどうも、ピアノの下にもぐって棒切れでたたいたり、ハンマーでトタン板をたたいたりする、いわゆる「前衛音楽」を考える人がいるかも知れませんが、そうではありません。

間宮氏は、私達が生活している「日本」私たちが生活している「現代」とを土台にして良い作品を書いています。

この唄は、昨年六月井上頼豊氏チェロ独奏会のために依頼されて作曲された最も新しい曲です。



作曲者の故郷である東北の民謡のうちから「南部牛追唄」「御祝」「銭吶」「南部牛方節」の四つの民謡旋律を素材とした、自由な抒情的作品で、日本のチェロ曲として最優秀の部に属するものと評されています。曲は、チェロの自由なカデンツアで始まり前記の四つの民謡素材が順次現われ、ピアノの描く牛方の鈴の音とともに遠く消え去って行きます。

桑桐（サン・トオン）

幻想曲

中国の現代作曲家桑桐（サン・トオン）の作品です。

作曲者のことも曲のことも全然わかりませんが……。井上氏は、昨年、日本合唱団に団長として同行し、中国を訪問しました。

この合唱団の各地巡演は大成功で、日中友好に大きな成果をあげましたが、この「幻想曲」は、そのおみやげです。中国では、民謡の発掘・再編が大大的に行われていますからこれも、その中で生まれた曲でしょう。

曲はピアノの序奏に始まり、チェロが東蒙古民謡調の主題を朗誦ふうにひき出します。すぐに急速な舞曲となり、この主題を中心に様々な色彩が対比しながらもり上って、ピアノ独奏にひきわたされます。いったん静まってからピアノに陝北民謡調の新しい旋律が出てチェロとピアノで三曲変奏されふたたび急速な舞曲にかえりチェロのカデンツアをへて激情的な結尾に入り、激しく終ります。

サン・サーンス

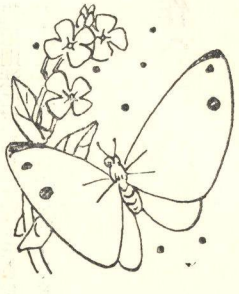
白鳥



あまりにも有名なチェロの名曲です。原曲は、作曲者が一八八六年、五十一才の夏、演奏旅行の途中オーストリアのクルディムという小村で、パリの友人のために作曲した奇抜な組曲「動物の謝肉祭」のなかの第十三曲です。チェロ独奏部は原曲のまま、白鳥の浮ぶしずかな湖面のさざなみをあらわす伴奏は、原曲はピアノ二台で書かれていますが、今日のチェロの演奏会ではピアノ一台で受け持たれるようになっています。

カサード

親愛の言葉



あなたのサークルの活動家を次期委員に!!

委員候補推薦のお願い

「光陰矢の如し」

早いもので一昨年栃木労音の誕生を見てからもう三年目を迎えました。

活動の内容もますます複雑になり、各種の会議や諸活動で委員もかなり過重な状態におちいっております。

困難な情勢の中で労音を維持しさらに伸展させるには、数的にも内容的にも新しい活動家が必要です。

労音の運営にそして活動に新しい空気を吹き込み、より充実された活動が行えるよう候補者を推薦して下さい。

いかがでしょう!

あなたのサークルの活動家を委員候補に推薦してくれませんか。候補者を推薦されるサークルは事務局まで御連絡下さい。

いくつかのサークル共同で推薦して下さっても結構です。

関東労音連絡会議開らかる

3月17・18の両日、水戸大洗海岸で第七回関東労音連絡会議が開らかれました。参加七労音から集まった人々約五〇名で会場はギッシリです。関東労音も大きくなったなあという感を強くしました。

先ず、全国労音から現状報告があり、百万人の労音運動を目指して、各地で組織拡大活動が行なわれていること、労音の財政を圧迫する国税通則法に対する反対運動が行なわれていること。最近の企画傾向として伝統音楽――例えば東京の前進座、神戸の文楽など――がとり上げられて来ていること、不当課税をしようとする国税通則法に反対していくことなどが決定され、全日程を終了しました。

4月23日～25日に国民文化全国集会が開らかれ、国民文化の創造について討議されるので労音も参加することなどが報告されました。

次に関東労音から新らしい労音の紹介があり、両毛労音が太田と足利に会場をもって発足したこと佐野、結城、土浦に労音設立の運きがあることが報告されました。

次いで、各単位労音から現状報告があり、終ってから各分科会に分れて討議を行ないました。

組織分科会では、各労音の総会を5・6月に統一して、企画や諸活動の提けいを深めることが決まり、企画分科会では、各労音の今年度の例会評価が発され、両毛の外山滋リサイタルや、特に栃木の新制座の成功、宇都宮、栃木の邦楽例会の反響などが注目を集めました。

また、関東労音の共同企画であるミュージカルの制作を具体化するため各労音の代表によって、ミュージカル製作実行委員会を組織することが決まりました。

なお、企画分科会には、東北労音事務局とミュージカル製作の経験を持つ横浜労音が参加しました第三の事業分科会では、第二回の関東労音友好祭を七月に実施することが決まり、これも実行委員会をもって取り組むことになりました。

これらの他、世界青年婦人学生平和友好祭へ労音として参加する

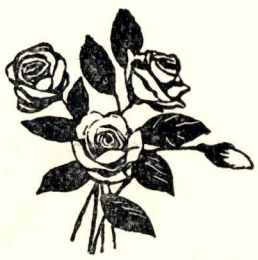
ミュージカル製作へ

関東労音で取組む

前々回の連絡会議で関東労音としてミュージカルを共同でとり上げることにきまり、その後種々検討を加わえてきましたが、このたびの水戸における連絡会議の席上ミュージカル製作実行委員会を設置して、積極的にこの問題に取組むことが決められ、その結果に基づいて、去る4月1日宇都宮で第一回の実行委員会がもたれましたその結果、当面の目標として、委員、会員とも、労音としてのミュージカルを理解すること、つまり従来のアメリカ映画などにみられる華やかさだけのものでなく、私たちの生活をテーマとし、私たちと同じ人間を主人公にするというような、生活に結びついたミュージカルを作って行こうということになり、先ず関東労音としてどゆう内容のものを作るか、会員みんなで検討することになりました

今後、いろいろな形で会員みなさんの声をお聞きするようになると思いますが、ぜひ積極的にご意見をお寄せください。

なお、東京労音の製作したミュージカル劉三姐の評価が朝日、毎日などに掲載されていますので参考にお読みください。



ニュース

ダークの出演について

七月にダーク・ダックスをとり上げるよう企画しましたが、ダークが六月から八月にかけて、ソ連を訪問することになったため、出演が不可能となりました。

企画部としては、会員の希望が多いので、出演が可能となる機会をとらえて再度企画する態勢でおります。現在の見通しでは、九月はソビエトから連れて帰る女性ボーカルトリオと共に全国各地で公演する予定であり、一〇月は恒例のアヒルの国の公演があるので、一一月以降に出演が可能となる見込みです。

会費の事で皆さんにお願い

着実な発展を続けて来た昨年度は三月例会で閉じられ、また新らしい一九六二年度がはじめられます。皆さんの御希望と委員側の企画意図が反映された年間企画は四月から八月まで五ケ月間がまずきまりました。さてここで問題となりますのは会費の事です。昨年来の諸物価の値上りにともなって一五〇円の基本会費では種々の活動が財政的な面で苦しくなって来ました。必要最低の出費でどうにか切り抜けて来ました労音のお台所も限度が来たようです。そこで年間企画に結びついた長期の財政計画を立ててその平均会費を計算してみると一七ケ月間の平均が約一九〇円と出ます。またすでに企画のきまった四月から八月までの五ケ月間の平均は二〇〇円となります。先頃行なわれた代表者会議の席上でも大多数の代表者が二〇〇円の平均会費を希望しております。毎月会費の世話をしておられる代表者や世話人の方は追加のある月と普通会費の月といちいち考える必要がなくなるのでこの方がやりやすいと思われます。この事は規約改正に関する重要な事なのでいずれ総会の決議を経てきめられますが四月からざんてい的に基本会費プラス五〇円として二〇〇円の会費で出発する事となりましたので皆さんの御理解ある御協力をお願いいたします。

（参　考）

四月　井上頼豊（チェロ）　一五〇円
五月　東京労音新交響楽団（オーケストラ）二五〇円
六月　賀集裕子（ピアノ）　一五〇円
七月　バッキー白片アロハハワイアンズ（ハワイアン）　三〇〇円
八月　小原安正（ギター）　一五〇円
平均二〇〇円

第二回関東労音友好祭の予定

日時　七月二十一日(土)～七月二十二日(日)
場所　榛名湖畔
費用は未定　一泊二日
テント・バンガロー使用にて自炊する。
参加労音
宇都宮、栃木、日立、水戸、熊谷、高崎　秩父、両毛(太田、足利)

横浜労音でミュージカル「風に向って歌おう」

横浜労音が本格的なミュージカルを、ということで「いちょう座」と提携して共同製作した〝風に向って歌おう〟はようやく二月例会で実現、会員に好評を博した。それはこのミュージカルが働く者を主人公とし、その日常生活、労働の場の具体的諸事件を、働く者の感情を通してうたいつづったところに会員の共感をよんでいる。しかし、運営委員会では、まだ総括的評価を出してはいないが、今回のミュージカル製作の過程にあって、いろいろ意図したこと、つまり会員も参加してテーマを討論してきめること、専門家ともっと交流していくことなどが、実現しなかったことから、予期以上の成果はあがらなかったのではないかと反省している。

山根弥生子海外演奏旅行

全国労音の海外派遣音楽家として、ピアニストの山根弥生子さん（音楽評論家山根銀二氏の長女）が去る二月十四日にSAS機でソ連に向った。ヤルタ、ザポロージェ、ハリコフ、レニングラード、モスクワ等でそれぞれ演奏会を開く。

山根さんは一八才で渡仏、パリで三年間ラザール・レヴィに師事後スイスに移りマックス・エッガーに学び現在では、ヘルムート・ロロフについている。一昨年帰国し各地労音例会に出演し、こんどの旅行出発前にN響の二月定期演奏会でベートーベンのピアノ協奏曲第四番を演奏好評を博した。

コンセルト・ヘボウ管弦楽団大阪国際フェスティバルに出演

ヨーロッパの三大交響楽団の一つ、オランダのアムステルダム・コンセルトヘボウ・オーケストラの一行百余名は第五回大阪国際フェスティバルに参加のため四月中旬来日する。一行は名古屋・静岡・東京・郡山等で十五回の演奏会を行う予定である。

荒川義男ギターリサイタル終る

去る四月三日、中央公民館で開かれました荒川義男さんのギターリサイタルは盛況の中に終りました。「禁じられた遊び（ロマンサ」を始め多くのすばらしい演奏が行われ、郷土の音楽家を育てるという事の一翼をになえ、今後の参考にもなり、ちょっと会場その他の条件が悪かったりしましたが、楽しい一夜でした。

岡田博 アコーデオンリサイタルをきいて



アコーデオンという楽器についてわれわれは余りなじんでいないアコーデオンといえば素人のどじまんの有力な演奏楽器である位に今まで感じていたが、岡田博さんの演奏を聞いていてはじめて本来のよさがおぼろながらもわかったような感じだ。かなり重量のあるあの楽器を自由に動かすこと自体細かいテクニックを必要とする曲を演奏する事はむずかしいように思っていた。

もう一つアコーデオンについて思い出すのがシャンソンである。かろやかなシャレたタッチの中に人生のこもごもの事をその甘くせつないメロディーにのせてわれわれ軽音楽ファンの耳に入ってくるしかし、アコーデオンがクラシック曲をとり上げられるようには、どうしても思えなかった。

特に私なんかがもっている先入意識はバッハの曲のようなおごそかな曲を演奏するにはその音そのものが不向きであるように思えたが、いざ聞いてみるとバイオリンのように思える。私は特にラベルの死せる王女のためのパバーナが印象に残った、ものがなしく淡々とかなでるメロディーは幻想の世界に私を引き入れなかなかはなそうとしない。

ピアノはとても楽しそうでよかった。ちょっとおどけてみせたりなかなかのショー・マンのようだがテクニックは確かで快い。

コントラバスの「白鳥」はチェロ演奏にくらべてちょっと「灰鳥」になった感じ。むりに演奏しているようで、特に音がなめらかに出ずガッカリした。

「十二番街のラグ」が落ちたのはちょっと悲感したが、アンコール曲など親しめるものをサーヴィスしてもらって元気をとりもどす「二つのギター」「剣の舞」などジプシー弦の味わいとはちがった感じのよさをたたえて成功だったように思う。ただちょっと気にかかったのはアンコール曲の「チゴイネルワイゼン」の途中で拍手が入ったこと。感激して拍手するのの曲の時は、その可愛いいおどりに心をうばわれる。バイオリン曲であると、やはりバイオリンの音をなつかしむ時もあったが、アコーデオン演奏にはそれなりのよさもあるのだろう。それにしても、レパートリーの多いのには驚きの他ない。

ピアノのアッちゃんの若さにみちあふれ、その名にそむぬチャメッケぶり、地味なアコーデオンの演奏に、ユーモアをたっぷりきかし、化学調味料的役割をしてくれた。又作曲科出であり、編曲など、この演奏には多大の成果があったろう。私が聞きたいと望んでいる今井久仁恵女史の伴奏をしているとあっては、無関心ではいられなかった。

何の気取りのない面々の演奏はアコーデオンのムードを表現するにふさわしいものだった。

アコーデオンの持味を充分に

私達の親しみやすいアコーディオンの独奏は非常に期待をよせていたが予想通りすばらしい演奏を満喫出来た。

美しき碧きドナウは自分達が発表会で演奏したことがあるので特に関心を抱いたが、女性コーラスの空間をなくするくらいの演出がほしかった。

アコとはそうした楽器ではないだろうか。　栃木合唱団　Z

三月例会を反省して

〝アコーディオン例会〟と聞いた時、私は果してアコーディオンで例会がもてるのだろうかと云う一抹の不安があった。アコーディオンと云えば、子供の頃、幼稚園などで、生徒が丸く輪をつくり、先生がアコーディオンで伴奏し、遊戯する。そんな古い記憶しか残っていない。又、さびれた酒場などで、長い人生につかれた老人が手風琴を、物悲しく弾いている映画が、よくあった様におぼえているばかりでなく、アコーディオン例会と聞いたみなさんも、そんな想像をしなかっただろうか。期待と、不安の入り混った複雑な気持で会場に入った私は、自分の考えが消極的であったことに気がついた。理解しようとする努力が重要でもあり、労音の意義があるのではないだろうか。

第一部　クラシックセクション

私には耳なれぬ曲もあったが、美しき碧きドナウの演奏が始ると、周囲の人達も、静かに目をつぶっ

らくがき帖

▼素朴な感じの演奏者、華麗なアコーディオン、咽もとを流れ込むようなメロディー！　まるでソーダー水でものんだあとのようなすがすがしさ。

▼第二部のコントラバス、ピアノ独奏はとてもよかったです。ナレーターの役割は岡田さんがなさったらもっと楽しかったんですけれど。　東中生

▼ヴァイオリン・コンチェルトの演奏はよかった。アコーディオンのもつ甘さが、この曲にマッチしていたと思う。栃高ＴＡ

▼〃三月例会はアコーディオン〃これを知って〃なんだ、つまらない〃これが僕の感じていたこと。しかし席についてみて、その先入感が、間違っていた事に気づく。アンコールは、こよいの子守歌になりそう。　ＹＴ

▼今回の舞台のオブジェは、少々グロテスクな感じがないでもないが、どうして、なかなか立派だ。　我流家元

▼おおすばらしきアコーデオン、照明の反射で種々な色をはなちさんぜんとかがやいて、演奏をより効果的にしている。今の女性の生地の様な光を放って。

よく動く指におどろく

なかなかシャレた解説と独特のすばらしいテクニックで私の心を完全にとらえてしまった。

メンデルスゾーンのバイオリン・コンチェルトなどバイオリン以外の楽器で演奏する事など今まで一度も考えてみることすらなかったが、場合によってはバイオリン以上のすばらしさを出していたよとは多少ニュアンスは違うけれども、しっかりとした音をもち、深く私の胸に焼ついてしまうほどの新たな感激をおぼえさせたのである。

それはかなり岡田さんがピアノを専門的に学びクラシック曲というものをよく理解しているからであろうが、真剣に余り他人がとりくもうとしない楽器にとりくみ、たゆまぬ努力精進をされているからだと思う。正確なテクニック、一曲もおろそかにしない研究熱心さは演出のまずさをさほど気にさせず立派な例会を作っていたように思える。ただ惜しむらくはアンプがあまりよくなく、むざむざ力を充分に出しきれなかったように思えるのは、かえすがえす残念でしかたがない。　Ｍ・Ｄ

アコーデオンのムード

アコーデオンのムードにひたる頃よき春の夜

始めて聞く演奏で、アコーデオンのムードをあぢわえた、と云えるのは、演奏者のテクニックのなせるワザ……。

クラシック、ポピュラー、いずれもひけを感ぜられない演奏ぶり聞きなれたバイオリン曲も、アコーデオンにひきこなされると、又異なる別のあじをあぢわう事が出来。聞きほれていると、バイオリンかしら、と錯覚する時もある。

微妙な左指の動きを、右指のおどりが調和して、アコーデオンが生き、ムードが誕生する。

アコーデオン奏者は、その重さを体で支え、どっかり腰をかけ、演奏者のゼスチァーはみられず、観客者に地味な感じを当えるが、あの指をゴランナサイ。ゼスチァーより、はなやかな指のおどりが見られるではありませんか。未知ならもっと堂々とすべきだ。何度となく聞いている曲なのだからかつに儀礼的に曲が終れば拍手をするから、あの曲が終ったと感違いしてたたいたのなら実に聞きぐるしいと思う。

で始まるＰ「みずはさやかにうつくしく……」から、力強いＦ「われらいまうたう……」で始る後半を削除してしまったのはどうしたことか。編曲上の都合にもよるのかも知れないが残念な事である。

メン、コンはヴァイリオン専用の曲でありアコには表現力の限界がある。ほとんどバスが入らずアコ演奏技術の長所リズム・ハーモニーであるボリュームを生かした面がなくうるおいのない調べとなった。バッハのオルガン曲、トッカータニ短調や、ショスタコビッチのポルカ、ラメール等はアコの音量感を生かしたすばらしい演奏である。

前半は非常に固く肩のこる様な演奏であったが後半「アコのムード」よりは余裕をみせ私達に舞台より呼びかけるかの如くなめらかなタッチとなり無伴奏は文句なしに酔わされた。

アンコール曲は「黒いひとみの若者が……」来るものと思っていたのに裏切られた。

クラシックアコとはいえ、アンコールの時には、ロシヤ民謡やフォークダンス曲くらい聞かせてもよい。手拍手、足拍手そろえて会員が合唱出来る様なコーラス曲をリードしてもらい、舞台と観客席て聞いている。

第二部　アコーディオンのムード私の大好きな死せる王女のためのハバーヌ、美しきローズマリー、岡田さんのたくみな演奏が、私の心を夢の世界へと、引き入れてしまった。あの心にひびくものがなしさは、アコーディオンならではでない音色だと思った。

ギャロップ、剣の舞などは、よく知られているだけに、何か身近かなものを感じた。アンコール曲のチゴイネルワイゼンは、今迄の例会にも聞いていただけに、親しさもわき思わずききほれてしまったしかし私が非常に残念に思ったのは、雨が降って来たせいもあるのか、会場内が落ち着きがなくなり席を立つ人が、多く見受けられた休憩時間を多くとりすぎたせいもあるが、自分達の例会だと云う、認識が欠けているのではないだろうか。演奏者に対してもエチケットを知らない態度ではなかったろうかと反省する。

〃よい音楽を創造する〃と云う労音の目的のためにも、アコーディオン例会に限らず私達会員は、もっと音楽と云うものに積極的に、とりくまなくてはいけないのではないだろうか。

桂



五月例会のこと

五月例会は、ＡＢＣ交響楽団から丸一年ぶりのオーケストラ例会です。オーケストラの楽しみは今更事新らしく申すまでもないでしょう。

しかし、単にオーケストラをきくということだけが目的であったら、ＡＢＣとか東フィルとかプロのオーケストラを呼べばいいわけですが（もちろんプロのオーケストラの場合費用が非常にかかるとか、日程がとりにくいなどの悪条件があります）企画部が特にこの新響というアマチュアの楽団を選んだことにはいろいろの意味があるわけです。

先ず第一に音楽内容についての期待です。新響のメンバーは私たちと同様、職場に働き或いは学校に学ぶ人々ばかりだということです。勤労者としての生活感情をもつ人々の演奏には、何か一般のオケにみられぬものがあるだろうということです。それがどういうものであるかは、実際に新響に触れていない私たちには想像できません。

しかし、新響の仲間が、私たちと同じ勤労者の立場で創り出す音楽には、プロのオーケストラとは違った、共鳴や、親しみや、感動を求めることができるのではないかということはいえると思います。特に新響の場合、指揮の芥川さんを中心に、団員お互いが人間として信頼し合って仕事をしている集団であることから、そのアンサンブルに一段と期待がもてるのです。

次に、指揮者の芥川也寸志さんに対する期待です。芥川さんは交響曲、歌曲、ミュージカルのすぐれた作曲家として、一般にはもちろん特に、私たち働く者の間では圧倒的な支持をもっており、また、音楽評論家というより文化ないし、社会評論家といった厚みのあ

ごあいさつ

五月例会にこのオーケストラをお迎え下さって本当に有難うございます。たとえ技はつたなくとも、みんなが一生懸命練習してきたその成果を温い気持で迎えてやって戴きたいと思います

このオーケストラのメンバーはすべて昼間は職場で働き、あるいは学校で勉強している人たちです。したがってオーケストラとしての技術的向上には、おのずから一つの限度があります。しかし、アマチュア音楽における楽しさやよろこびや、張り合いというものは、その〈限度〉によってこそ、生まれてくるものともいえましょう。ただ問題は、その限界の中に安住するか、あるいはその限界を常に意識し、それへの挑戦を試みるか、そのいずれの道を選ぶかということです。私は、アマチュアだから、という度々使われる「かくれみの」の如き言葉を好みません。それは単に自分自身への自己満足と道楽的楽しみを生み出すことにしか役立たないからです。そればかりでなく、アマチュアリズムの本質に、最もそむく言葉でさえあります。下手でもよろしい。恥じず、怒れず常々と自己をうち出してゆけばいいのだと思います。

そういう点で、このオーケストラの連中は実にたのもしい。団結し、励ましあって、助

東京労音新交響楽団

指揮　芥川也寸志

プログラム

シベリウス……フィンランディア
シベリウス……カレリア組曲
モーツアルト……交響曲第40番ト短調 K550
チャイコフスキー……交響曲第5番ホ短調作品64

5月例会
5月19日（土）後6時
5月20日（日）後1時
中央公民館

る活動家でもあるし、新響の育ての親、或いは東響などプロオケの客演指揮など演奏家としても立派な仕事をしている人です。オーケストラの演奏内容は指揮者の音楽に対する考えが反映してつくられるのですから、このいつも民衆の中にいる音楽家芥川さんの指揮という点にも大きな意義があるわけです。

第三に曲目です。シベリウスのフィンランディアと、カレリア組曲、この二曲は民族性の香り豊かな名曲として広く愛されており、特にヒンランディアは合唱曲としても歌われており、ご存知の方も多いと思います。三番目のモーツアルトの第40番も有名な曲で、一番演奏がむずかしいといわれるモーツアルトの作品の中でも代表的なもので、交響曲の真髄を味わえるものです。最後はチャイコフスキーの第5番です。ベートーベンの第5番運命に劣らぬ、深みと色彩と躍動の中に、人間の斗いを見事にうたいあげたこの曲が、民衆の音楽家芥川さんの指揮の下に私たちの仲間である新響の人々によっていかに表現、創造されるか、今から期待に胸がうずくようです

新響は四月に行なわれる東京労音例会への出演に当って、各評論家、新聞社などを招いて評価を求めるなど、意欲的な態勢でとり組んでいるので、企画部としては、会員のみなさんが「よかったなア」「かよったワ」といって評価していただける例会に必ずなるだろうと確信しているわけです。

5月例会

通常会費　150円
追加会費　50円
合せて200円になります



けあって、いつも大きな目標に向うレールの上を、たとえ少しずつでも前進しようと一生懸命です。どうか彼らの意気と情熱をお汲み取り下さいますように。

私たちは、今与えられたこの一つの時間にすべての力を注ぎます。それが皆さまの心のどこかに、わずかでもふれあうことをひたすら祈りながら――。

お知らせ

会費受付

六月例会の会費は次の通り受付けます。

希望日予約期間
五月一八～一九日
希望日の予約は代表者の方にお願い致します。
尚、電話でも結構です。

会費受付期間
五月二三日～二六日
受付期間内に納入されない場合は退会したものと認め、予約会員の方に入会して戴きますので、必ず受付期間を守って下さい。

受付時間（時間厳守）
午前一〇時～午後五時半
代表者手帖を持参して下さい。
日曜日はお休みです。

お手伝い ごくろうさま

三月例会には次の方々にお手伝い戴きました。

二六日 受付係
本司、月足（清水音楽教室）
板橋、松本（水仙）
水野（白馬）

二七日 受付係
神島、篠原（神島サークル）

会場係
大出、越沼（近藤グループ）

接待係
中島、坂田（赤城サークル）

色紙当選者

3月例会の色紙当選者は次の座席の方々です。当選された方は事務局へお出で下さい。

26日		27日	
ろ	21	B	31
へ	3	C	17
ち	2	M	17
H	7	O	35
K	1	こ	35

関東労音 今月の例会

宇都宮　石井好子（シャンソン）
高　崎　白鳥の湖（松山樹子）
熊　谷　松本文男
秩　父　植野豊子（バイオリン）
水　戸　安川加寿子（ピアノ）
日　立　〃
両　毛　芦野　宏

会員証が新しくなります

会員名簿調整と共に会員証の書き替えを行いますので、名前の違っている方がありましたら、代表者を通じて、事務局へ御連絡下さい。尚、新会員証は五月会員受付の際に旧会員証と引き替えにお渡しいたしますから、代表者の方は回収に御協力下さい。

代表者会議のお知らせ

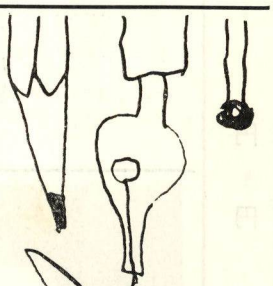
日時　4月29日
場所　湊町公民館
議題　今年度総会について

多くの代表者の方が出席され総会運営を円滑に行うために努力しましょう。

追加会費のことについて

今までの通常会費に追加会費50円をプラスして 200円会費として5月よりやって行きます。

（詳しくは7ページ参照のこと）



編集後記

木の芽が顔を出す時期になりました。春山の色々なニュースがわれわれの身辺をかすめ、野につどう若人の春。みごとにひっかかったエープリル・フールと話題が一せいに花開いた感じです。先日友達と夜桜見物に大中寺まで行って来ました。春の夜の怪談。七分ざきに咲き、白くかすんだ木の下でむじゃきにはしゃぎまわり楽しい一夕でした。

途中持参したローソクを風に消きれないように時々手で風よけをして狐の嫁入りよろしく人のたえた山道を一列にしずしずと下りて来たりし、しばし自然にたわむれました。

三年目を迎えた栃木労音も年間企画もきまり意欲をもった新しい委員も入って来ており、今年こそはより多くの前進を試みようとはりきっています。公民館にも立派なステレオ装置が入りわれわれ音楽ファンには一つのうれしい話題です。労音の事業活動もより多くの成果を得られるでしょうし、なにかと参考になり多くの会員の満足を得られるでしょう。来月から毎月追加会費五〇円をとって年間必要経費をならし会員制度である事をより多く認識し、健全財政を保って行く事になりました。事金銭に関してはきつい事ですが、一般の値上りムードのしわよせを労音だけ一人知らぬふりというわけにもいかずいたしかたない事ですが、その費用の内でよりよい企画をくむよう共々努力して行きたいものです。

なお今月は減ページにしましたが来月は二周年に当りますのでこの分増ページしたいと思っています。（政）

1962.4.17. No.23　発行・栃木勤労者音楽協議会　編集・宣伝部